

■今川了俊(貞世) 武将・歌人。幕府方にあつて九州平定を成し遂げ、解任後も長寿を保ち、冷泉歌学に多大の貢献。

いまがわりようしゅん

北条氏外執権1326＝ 守護大名今川範国の次子に生まれる。

鎌倉幕府滅亡1333＝ 7歳：

中先代の乱・1335＝ 9歳：

南北朝分裂・1336＝10歳：

・・・・・・1337＝11歳：この頃、祖母について和歌を学び始める。

・・・・・・1341＝15歳：まぼろしに源頼信をみ、歌をよむべきことを教えられ、京極為兼に和歌を学ぶ。

・・・・・・1344＝18歳：

観応の擾乱始1350＝24歳：

・・・・・・1351＝25歳：父範国とともに直義追討の軍に従い、初陣。

観応の擾乱終1352＝26歳：

・・・・・・1353＝27歳：

・・・・・・1355＝29歳：東寺合戦に従う。

蒐玖波集・・・・1356＝30歳：この頃から、順覚、救済らについて連歌を学ぶ。

足利尊氏没・1358＝32歳：

・・・・・・1359＝33歳：南朝攻撃に従う。

・・・・・・1361＝35歳：南軍と戦う。

・・・・・・1362＝36歳：

・・・・・・1366＝40歳：この頃、室町幕府の侍所となり、山城守護を兼ねる。二条良基について連歌を学ぶ。

細川頼之管領1367＝41歳：將軍足利義詮の死に伴い、出家して了俊と号する。

足利義満將軍1368＝42歳：

引付頭人を兼務し、また範国の譲りをうけて遠江守護も兼務。

了俊九州探題1370＝44歳：\*南朝勢力が優勢な九州を平定するため九州探題に補任され、  
・・・・・・1371＝45歳：弟で養子となった仲秋(頼泰)、弟の氏兼、子の貞臣らの一門子弟とともに九州に下向した。同時期に安芸守護に補任されている。「道ゆきぶり」成る。

応安新式・・・・1372＝46歳：征西將軍宮懐良親王のいた大宰府を攻略し、

観世父子登場1374＝48歳：九州の大勢を制したが、

・・・・・・1375＝49歳：少式冬資を肥後水島の陣に誘殺したことから、島津氏の離反を招いた。

高麗倭寇激化1376＝50歳：幕府、大隅守護島津氏久・薩摩守護島津伊久を罷免し、鎮西探題今川了俊に兼任させる。

高麗倭寇と・・・・1377＝51歳：島津氏攻略のため、63名の南九州国人による反島津氏の一揆結成に成功。「今川了俊書札」成る。

室町御所始・1378＝52歳：筑後善道寺で「道ゆきぶり」再稿を成す。

義満親政始・1379＝53歳：

・・・・・・1380＝54歳：「了俊下草」(今川了俊問・良基答)成る。

了俊九州支配1381＝55歳：\*菊池氏の本拠地を陥落させ、のち懐良親王を筑後に追い、九州経営を確定的なものにする。

九州探題としての了俊は、みずからを將軍の分身として位置づけ、全九州に一門子弟を代官として派遣して経営を行い、また高麗・朝鮮とも通交した。

高麗軍来寇・1389＝63歳：義満の巖島参詣に従い、「鹿苑院殿巖島詣記」を書くなどしたが、

明徳の乱・・・・1391＝65歳：「今川了俊懐紙式」を著す。

南北朝合一・1392＝66歳：宗像社造営の幕命を受ける。「懐紙式」を著す。

義満太政大臣1394＝68歳：朝鮮とも盛んに交渉し「大藏経」などを求める。

室町幕府は、了俊の在職が長期化して権力が強大化するのを好まず、幕府内部の人事変化と大内・大友氏の讒言などによって、

今川了俊召還1395＝69歳：\*九州探題を解任され、京都に召還される。

その後、駿河・遠江両半国守護に補任されるが、

・・・・・・1398＝72歳：

応永の乱・・・・1399＝73歳：応永の乱では大内義弘、足利満兼に通じたが、疑われ、

・・・・・・1400＝74歳：義満の命を受けた上杉憲定により討たれる。上洛を条件に許され、政治生命は終止符をうたれる。冷泉派の歌人としても名高く、晩年は和歌・連歌の教導にあけくれ、冷泉歌学を体系化につとめて、

遣明船始・・・・1401＝75歳：

花伝書・・・・1402＝76歳：代表的作品に「難太平記」、

・・・・・・1403＝77歳：「二言抄」、

・・・・・・1406＝80歳：「言塵集」、

・・・・・・1407＝81歳：

足利義満没・1408＝82歳：「師説自見集」、

・・・・・・1410＝84歳：「了俊歌学書」、

・・・・・・1411＝85歳：「歌林」、

・・・・・・1412＝86歳：「落書露見」などがある。

・・・・・・1414＝88歳：没した。

吉川弘文館人物叢書、「没年日本史人物事典」、「人物日本歴史館」、平凡社百科事典、